

九月五日東方弱小民族聯盟上海支社ニ於テ「日本兵士ニ告タル書」ヲ印刷シ軍閥等ニ欺カルナ日本内部ハ久シカラスシテ崩潰スヘシトノ反帝反戰思想ヲ鼓吹シタル「ピラ」ヲ第一線兵士ニ撒布シタリ

四六六

九月二十四日鄭華岩等ハ佛租界古拔路二六號ニ秘密事務所ヲ有スル密派警備司令楊虎ノ指揮下ニ在ル別働隊(暗殺ヲ業トス)ニ接近シ其ノ配下トナリテ日本側軍政、財界要人ノ暗殺ヲ企圖シ川越大使其ノ他知名人士ノ動靜ニ注目シツツアリシ趣ナリ

十月三日金九一味ノ韓國々民黨ニ合流シタル柳子明、羅月寒ノ兩名ハ天津ニ赴クトテ英國系太古汽船會社ノ盛京號ニテ出發シタルカ彼等カ入津ノ目的ハ日本軍後方ノ擾亂、要人暗殺ノ下準備ノ爲ナル趣ナリ

十月五日中國側抗日別働隊ト合作シ中韓青年聯合會トシテ「抗戰時報」美濃紙大二ツ折四頁ノ支那文及朝鮮文石版刷ヲ印刷シ主義宣傳ニ資スルコトシタリ

十月初旬天津ニ密行シタル柳子明ハ某所ニ於テ豫テ同地ニ潛入セシメアリシ該一味ノ同志ト連絡ヲ了ヘ同月十七日上海ニ歸來シタルカ當分北支ヲ活動舞臺トスルコトトシタルヤノ趣ナリ

第六節 蘇聯ノ極東鮮人強制移住政策ト在滿鮮人ニ與

ヘタル反響

第一款 總 說

在浦潮總領事來電ニ依レハ最近蘇聯ハ極東地方在住ノ鮮人(軍隊内ニアルモノヲ含ム)ヲ中央亞細亞方面ニ強制移住セシムルコトニ決シ先ツ滿蘇國境ニ近接セル地域ヨリ着手シ而モ其ノ全部ヲ極メテ短期間ニ移住セシムルコトトシタル模様ニシテ同總領事館ノ入手セル情報ニ依ルモ「グロデコウオ」、「ナデーシンスカヤ」、「ボシエト」地方、「ハマタン」地方(密山南方地方)ヨリハ既ニ夫々立退ヲ命セラレ又ハ既ニ立退完了ヲ見タル地域アルモノノ如シ

右今回ノ強制移住カ果シテ豫期ノ如ク極メテ短期間内ニ在留鮮人全部ニ亙リ行ハレ得ルヤ否ヤニ付テハ疑問ナキ能ハサル所ナルモ現ニ相當廣範圍ニ亙リ強制移住ノ行ハレツツアルハ輸送列車ヲ目撃セルモノノ言ニ徴スルモ明カナルカ如キモ後述綏芬河反蘇鮮人運動期成同盟ノ名ニ於テ廣ク關係方面ニ散布セラレタル概文ノ内容中ニアル列車事故頻發ノ爲三千人ノ死傷者ヲ出セリ云々又右ハ蘇聯ノ計畫的加害行爲云々ノ點ニ付テハ今後尙ホ慎重檢討ノ要アル處尙モ本件ノ如キ極メテ短期間ニ於テ多數ノ人員強制移住實行ニ當リテハ其ノ間幾部無理モ手傳ヒ有リ勝チナル故障ナルヤニモ想像セラレ蘇側ニ於テ故意ニ列車ノ顛覆ヲ計リ殺戮ノ爲メノ殺戮ヲ行フト云フカ如キハ彼等カ何等ノ抵抗ヲ試ミス蘇側ノ措置ニ盲從シ居ル點ヨリ考察スルモ恐ラク鮮人一流ノ謬言ニ非スヤトモ思考セラレ

四六七

今本問題ヲ說クニ當リ順序トシテ沿海州ニ於ケル朝鮮人々口概數並彼等ノ一般生業狀態ヲ示サンニ

(A) 沿海州ニ於ケル朝鮮人々口推定數

確實ナル數ハ判明シ難キモ一九三一年三月出浦潮鮮字新聞「先鋒」ハ之ヲ十九萬四千二百四十九人ト發表セルカ爾後正式入國者ハ勿論滿洲事件以後國境警備ノ嚴重化ニ伴ヒ密入國者モ杜絶シタルヲ以テ現在ニ於テモ大ナル變動ナク二十萬人内外ト見ルコト妥當ナルヘシ

(B) 一般生業狀態

イ、農 業

沿海州海岸地方ノモノヲ除キ極東地方朝鮮人ノ大部分ハ農業ニ従事ス而シテ近時農業集團化政策ノ徹底ニ依リ(一九三六年度ニ於テハ極東地方農家ノ九一・六%ハ集團化セラル)個人農ハ嚴重ナル取締及制限ヲ加ヘラルルニ至リ事實上農耕ヲ不可能ナラシメタル結果現在ニ於テハ朝鮮人農民ノ大部分ハ蘇側當局ノ管理下ニアル「コルホーズ」乃至「ソフオーズ」ニ加入シアリ

ロ、漁 業

沿海州海岸地方ニ在住スル朝鮮人ノ大部分ハ漁業ニ従事ス由來朝鮮人ハ漁撈ノ技術並ニ勞働ニ於テ蘇聯邦人ニ比シ遙カニ優秀ナルモノアリテ、漁業「コルホーズ」及漁業工場等ニ於テ重要ナル役割ヲ演シツツアリ

朝鮮人ノミニ依リ組織セラレ居ル漁業「コルホーズ」ハ十七個所ニシテ其ノ他若干朝鮮人ノ參加

シ居ル漁業「コルホーズ」漁業工場及其他ノ漁業機關ハ多數ニ上ル

ハ、其 他

其他ハ炭鑛坑夫、工場勞働者、商店員、日傭勞働者、民警、「グベウ」通譯、教師、鐵道従業員等ニ職ヲ奉スルモノ及軍職ニ在ルモノ等相等數ニ上ル見込ナリ

第二款 強制移住ノ範圍及時期

今回ノ強制移住ノ範圍ハ昨年初頭「ソ」國內ノ一般の肅正工作ニ關聯シ行ハレタル所謂朝鮮人不純分子約一萬人ノ強制移住トハ異リ地域的ニモ將亦數的ニモ相當範圍ニ亘リ極東「ソ」領全部ニ及フモノト推測セラル此ノ結果現ハレタル現象トシテ左ノ如キ情報アリ

(イ) 唯一ノ鮮人新聞タル「先鋒」ノ廢刊

(ロ) 浦潮朝鮮人師範大學ノ解散

(ハ) 移住ノ爲輸送用貨車三千輛準備說

(ニ) 朝鮮人兵士ノ除隊及鮮人部隊ノ解散說

(ホ) 朝鮮人官吏ノ移住等

對鮮人文化施設ノ廢止並鮮滿赤化謀略機關ノ解散、大量移住輸送機關ノ整備等其ノ企圖從前ト格段ノ差アルヲ認メ得ヘシ

尙是迄入手セル情報ニ依レハ移住命令ニ基キ移住ヲ開始セル地區左ノ如シ

奧凱湖西方地區（「ハマタン」地方）	九月十日
「スバスク」附近	同 十二日以前
「イマン」附近	同 十二日以前
「ボシニツト」地方	同 十二日
「グロデゴオ」附近	同 十三日
「ウオロシロフスク」附近	同 二十日ノ豫定
「ナデージンスカヤ」附近	同 二十日
浦潮及其附近	同 二十五日以降
「ウゴリナヤ」	同 一ヶ月以内

以上ノ事實ニ依リ移住ハ滿蘇國境接壤地域ヨリ開始セラレ逐次奧地ニ及ホサルモノノ如シ

第三款 強制移住ノ目的

本件ニ關スル蘇聯當局ノ眞ノ目的トスル所ハ諸般ノ情勢ヨリ判斷スルニ防禦及防略的見地ニ基クモノノ如ク即チ其ノ實施ノ穩密周到且大量迅速ナルト國境接壤地方ヨリ順次開始セラルルヲ以テ積極的開戰準備ニ非サトノ疑ナキニアラサルモ「蘇」側ノ國內情勢及極東軍並極東各地ノ現況ニ照シ右ハ急

速ナル作戦準備ノ爲ニ非シテ現下支那事變ニ關聯シ日蘇間ニ於テ早晚豫期セララルル戰爭準備ノ爲ノ事前工作ト見ルヲ妥當トスヘク其ノ時期ヲ特ニ九月以降ニ選ビタルハ日本ノ勢力支那事變ニ没頭シ鮮人移住ノ動搖ニ乗セラルル惧少キト他方十一月ノ除隊兵定着政策ト關聯シ鮮人ノ土地ヲ之ニ與ヘントスルニ在ルヤニ認メラレ殊ニ「ウオロシロフ」附近ニ於テハ軍隊ヲ收容スヘシトノ理由ニテ鮮人ハ家屋及耕作地ヲ其ノ儘存置セシメ退去スル様命シタル由ナリ

「ソ」側ハ右移住ニ付テ強制労働或ハ追放ノ意ニ非ス移住先ハ土地肥沃ニシテ農耕ニ適スル地域ニシテ鮮人優遇ノ政策ニ出テタルモノナリト發表シタル趣ナルモ鮮人間ニハ相當動搖アルヤニ傳ヘラレ右蘇聯ノ鮮人移住策ニ對シ國境地方ニ於テハ強制移住ヲ嫌忌シ逃避越境ノ鮮人ヲ豫想シ自今一層嚴戒策ヲ講スルコトナリタルヤニ傳ヘラル

第四款 強制移住政策カ在滿鮮人ニ與ヘタル反響

既述ノ通り蘇側ニ於テ鮮人輸送中列車事故頻發ノ爲三千人ノ死傷者ヲ出シタリトノ情報ヲ得タル在綏芬河朝鮮人民會ニ於テハ斯ル殺戮ハ蘇聯ノ計畫的在滿鮮人彈壓ノ所爲ナリトナシ同地特務機關ノ諒解ノ下ニ十月九日同地縣公署辦事處ニ協和會側八島支部長以下五名、鮮人民會側六名祕密裡ニ會合シ左記要旨ノ決議ヲ爲スト共ニ別紙第一號ノ如キ檄電ヲ關係各方面ニ打電引續キ別紙第二號ノ宣傳文ヲ撤布スルコトトシタルカ本會合開催ニ當リテハ同地出先領事ニ何等ノ事前諒解モナク且時局柄本運動

ノ反響ニ付テハ相當考慮ヲ要スルモノアリタルヲ以テ不取敢同地領事館ニ於テハ八島支部長ヲ召致シ事情ヲ聴取スルト共ニ今後ノ妄動ニ付嚴重警告シ置キタル趣ナリ
右會議參加者顔振及決議要旨左ノ通り
イ、參加者顔振

四七二

協和會側
支部長 八島 正 雄 (縣公署綏芬河辦事處長)

幹事 疎 秀 雄 (外務局辦事處長)

同 渡 邊 哲 美 (稅關長)

同 川 口 正 敏 (縣公署屬官)

同 山田 外 免 治 (綏芬河警察)

鮮人側

邊 齊 翼 (前民會長)

朴 周 三 (民會理事)

崔 明 根 (露語教師)

金 容 植 (綏芬河普通學校教師)

李 鎬 性 (料理屋營業)
金 少 尉 (國境監視隊)

ロ、決議要旨

目下蘇聯邦ニ於テハ我等同胞鮮人ヲ極度ニ壓迫シツツアリ然シテ沿海州ニ血ト汗ヲ以テ築キ上ケタル基礎ヲ放棄セシメ彼等住民ヲ歐露ニ移住セシメツアルカ彼等蘇聯ハ故意カ偶然カ此ノ引揚列車ヲ三度顛覆セシメ三千名ノ死傷者ヲ出サシメタリ

之即沿海州三十萬鮮人ノ大量殺戮ノ魁ニ外ナラスシテ何ソヤ我等同胞ハ此ノ非人道的處置ヲ默視シ得ス大同團結シテ之カ救護ニ乗出サントス

然シテ反蘇同盟ヲ結成シ非人道的蘇聯ヲ打倒センカ爲ニハ如何ナル手段ヲモ敢テ辭セス武器彈藥ヲ要セハ之カ支給ヲ辭セス然シテ全滿鮮人反蘇大運動ヲ惹起セン云々

第一號

概 文

最近蘇聯ハ沿海州三十萬朝鮮人ノ親日滿傾向ヲ虞レ之カ歐蘇方面ヘノ大量輸送ヲ開始シタルモ列車事故頻發シ三千ノ死傷ヲ出セリ之蘇聯ノ計畫的大量殺戮ニ外ナラス
吾等綏芬河朝鮮人ハ同胞瀕死ノ苦惱ヲ聞クニ忍ヒス茲ニ沿海州同胞ノ爲對蘇膺懲運動ノ嵐ヲ捲キ起サ

四七三

ントス

願クハ閣下並同胞各位ヨ我等ノ運動ヲ援助シ共ニ立タレンコトヲ

第二號

全滿朝鮮人同胞ニ告ク

今ヤ赤色蘇聯ヲハ沿海州三十萬ノ朝鮮人ノ大量殺戮ヲ始メテ居ルノタ起テ！ 全滿朝鮮人！ 而シテ打倒蘇聯共產主義ノ旗印ノ下ニ闘ヒ拔ケ！ 蘇聯ハ由來強固ナル鎖國政策ヲ以テ治下民衆ニ臨ミ自國ノ實相ヲ國外ニ知ラシメサルハ勿論民衆ヲシテ外國ノ情勢ヨリ耳目ヲ閉サシメ來ル然シ駿々乎トシテ進展スル世界ノ動キハ人力ヲ以テ之ヲ覆ヒ隠セル管カナイ

沿海州朝鮮人ハ入國シテヨリ多年蘇聯國土ニ居住シ其ノ土ト化スル事ヲ決意シタトシテモ朝夕腦裡ニ浮フハ故郷ノ山河ヲアリ肉親ヲ然ルニ在蘇朝鮮人ハ晝夜ヲ分タス強制労働ニ追ヒ込マレテ居ルノタ牛馬ヨリモモツト酷烈ニ！ 而シテ茲ニ尺寸ノ近クニ新興滿洲國カ太陽ノ如ク生レ營々トシテ發展シ安居樂業ノ實ヲ擧ケツツアルノヲ見聞セハ之ニ衝動ヲ感シ希望ヲ抱クハ自然テアル而シテ近時「トウ」元帥等暗殺ノ蘇聯國內動搖ハ現下ノ國際緊迫ノ下ニ於テ其ノ國內機構ノ脆弱性ヲ遺憾ナク曝露シ戰時ノ在蘇朝鮮人ノ反亂ヲ恐レテカ九月一日以來逐次三十萬朝鮮人ノ歐蘇地方ヘノ大量追放ヲ開始シタ而

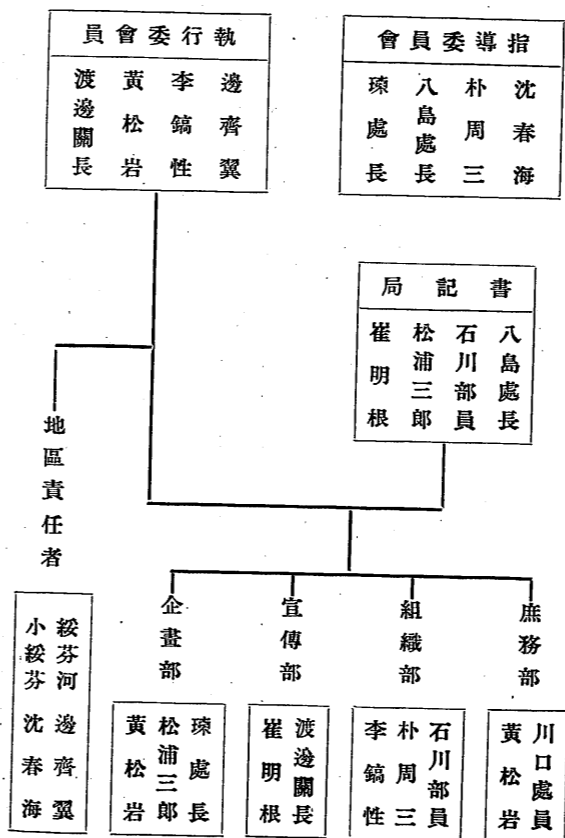
シテ現在迄判明シタル處ニ依レハ故意カ偶然カニ時間ニ三回ノ列車顛覆其他ノ事故ヲ起シ三千ノ朝鮮人カ死傷シテ居ル之ヲ大量殺戮ト云ハスシテ何テアロ

由來沿海州ハ朝鮮人ニ依ツテ開拓サレタ地方テアル而シテ今ヤ極東ノ穀庫トナルヤ不毛ノ地ヘト移住ヲ強制セラレタノタ蘇聯ハ理論トシテハ人種ノ無差別ヲ主張スルタロウ然シ蘇聯ノ實際ハ有色他民族ノ搾取ニ依存シテ居ルテハナイカ

此ハ奇シクモ彼等ノ現論的源流タル「ヘーゲル」哲學ニ依ツテ共產主義ノ誤謬カハツキリ證明サレル結果トナツタテハナイカ吾等ハ同胞ノ大量殺戮ヲ默視シ看過シ得ルタロウカ

吾等ハ蘇聯ノ此ノ大量同胞殺戮ヲ思フ時滿身ノ血液カ逆流スルノタ然シテ蘇聯ト咫尺ノ間ニ接スル級芬河地方ノ吾等ハ電波ノ如ク側々ト同胞ノ苦惱カ聞ケルノタ起テ全滿ノ朝鮮人ヨ！ 而シテ全滿ニ對蘇膺懲運動ノ嵐ヲ捲キ起セ

(附一) 反蘇鮮人運動期同盟運動實行組織表



(附二) 運動方針

- (イ) 本同盟ハ滿洲國協和會カ同盟ノ主旨ニ對シ全面的支援ヲ與フルコトヲ豫想シ協和會ノ積極的活動ニ出ツル迄ノ準備組織トシテ依然積極的運動ヲ繼續ス
- (ロ) 運動實施ニ當リテハ左ノ各項ヲ基本的條件トス
 - 1 協和會運動ヲ通シテ行フヘキコト
 - 2 單ナル朝鮮人ノミノ民族運動タラシメサルコト
 - 3 直接在蘇鮮人ノ救出ハ目的トセサルコト
- (ハ) 各地ニ於ケル運動ハ該地官憲ト密接ナル連絡ヲ保持シ其ノ諒解ヲ得ルモノナルコト
- (ニ) 右激文ヲ受ケタル關係方面ニ於テハ人心痛ク動搖ノ兆アリ早クモ新京、奉天、牡丹江各地民會ヨリ激勵電ヲ寄セ特ニ新京ニ於テハ各團體關係者等同地朝鮮人民會內會議室ニ集合ノ上之カ對策ニ付緊急會議ヲ開キタル由ナルカ右會議出席者及決議事項左ノ如シ

(イ) 日 時 十月十二日午後二時ヨリ同四時迄

出席者

- 新京朝鮮人民會長 李 鐘 元
- 全滿朝鮮人民會聯合會理事 朴 準 秉

協和會朝鮮人分會
 協和會青年團
 協和會少年團
 協和會首都本部
 國防婦女會

李鴻周 尹基碩 尹永祥 金璟哉 申榮雨
 外 十二名

(ハ) 決議事項

- (一) 激勵返電發送、綏芬河反蘇鮮人運動期成
- (二) 市民大會開催
- (三) 「ラヂオ」放送
- (四) 新聞報道

因ニ右決議事項ニ基ク諸行事運動ハ關東軍今村新聞班長ヨリノ注意ニ依リ取止メトナリタリ
 右ノ外同盟本部ニ於テハ元哈爾濱協助會長現穆稜新興鑛業會社理事長金應斗ニ招電ヲ發シ十月十三日同人等ノ來着ヲ俟ツテ更ニ牡丹江ヨリ急遽來援セル同地協和會事務長ヲ交ヘ現地委員等ハ十三日午後九時ヨリ翌十四日午前一時迄同地「ボクヲホタル」ニ於テ本運動ノ今後ニ於ケル具體的方針ニ付協議シタルモ議論百出シ徒ラニ理想論ニノミ趨リ協和會側ハ發起者ノ意志ヲ尊重シ此ノ際該運動

ヲシテ效果アラシムル爲之ヲ協和會本部ニ移管スヘシトナシ又鮮人側ハ從來鮮人カ冕角内地人ヨリ疎遠セラレ勝ナル事情ヲ訴ヘテ鮮人運動ニ對スル内地人ノ理解ヲ求メタル上本運動カ空疎ニ終ルコトハ大局上好マシカラサルカ故ニ此ノ際寧ロ本運動ヲ在蘇鮮人救濟運動(實質的ニハ滿領ニ適入スル同胞救濟運動)ニ變更シテハ如何等ノ提議ヲ爲シタルカ是ニ對シ異論者續出シ何等纏ル處ナク結局有耶無耶ノ裡ニ散會セリ

第五款 本運動勃發ニ際シ出先官憲其ノ他ニ於テ取リタル措置

本問題勃發スルヤ在滿各領事ハ管下各鮮人民會ニ對シ右決議内容ニ付テハ此ノ上共檢討ヲ重ネ且ツ慎重探查ノ結果ナラテハ明カナラサル處ナルニ不拘此ノ際輕々ニ反蘇運動ヲ起シ對蘇關係ヲ刺戟シテ無用ニ蘇聯ノ反抗心ヲ醸成セシムルカ如キハ大局上穩當ナラス事件ヲ一ト先ツ關係當局ニ一任シ成行キヲ靜觀スヘキ旨申聞ケ嚴ニ輕舉ヲ戒メ置キ他方在滿大使館警務部ニ於テハ本運動勃發以來之カ指導取締方ニ關シ不斷最深ノ注意ヲ拂ヒツツアリタル處之カ萬全ヲ期スル爲メ同地中央警務統制委員會幹事長ヲシテ地方警務統制委員長ニ對シ別紙ノ通り通達セシメ在滿各警察官ニ對シテモ右通達ノ趣旨ニ依リ協力セシムルコトトセリ

通 牒

十月十二日頃綏芬河反蘇鮮人運動既成同盟ヨリ滿内軍官民要路者並ニ協和會其他各地鮮人民會宛上記

ノ如キ電報配送サレ反蘇運動ニ關シ在滿鮮人ノ厥起ヲ促シ來レルカ本件ニ關シ軍ニ於テハ同十三日將來左記方針ニ基キ本運動ノ展開ヲ庶幾スヘク協議セラレタルニ付關係警務機關ト連絡ノ上今後ノ指導乃至取締對策ニ資セラレ度依命通牒ス

四八〇

追テ細部ノ協議決定セハ不日再牒スヘキニ付申添フ

記

- (イ) 蘇聯ノ其領内鮮人ノ壓迫暴狀ニ對スル反蘇的感情ハ當然ニシテ從テ綏芬河反蘇鮮人運動既成同盟ノ決意並全滿鮮人ノ厥起懲通方勸說モ其真情大ニ首肯シ得ルトコロナリ
- (ロ) 然レ共本件ハ之ヲ滿洲國國民タル觀點ニ於テ全局ヨリ觀察シ特ニ即今ノ時局ニ併セ照スニ決シテ單ナル朝鮮人一族ノミノ問題ニ非スシテ實ニ滿洲國五族全體ノ等シク義憤措カサルトコロナリ
- (ハ) 即チ朝鮮同胞カ其民族的一單位ノミヲ以テ反蘇運動ニ熱中猛進スルハ滿洲國建國ノ精神就中五族協和道義ニ於テ適切ナラサルノミナラス其反蘇運動ノ效果モ極メテ鮮少ナルモノアルヘシ亦此意味ニ於テ朝鮮同胞モ飽迄自己一族ノミノ公憤トシテ獨立ノ立場ニ於テ對蘇膺懲ヲ決意貫徹セントスルノ本意ニアラサルハ之ヲ察スヘキモノナリ
- (ニ) 仍テ將來本問題ハ滿洲國國民全體ノ問題トシテ其趣旨ノ徹底ヲ期スヘク滿洲國政府側就中弘報處並ニ協和會等ノ提携協議ヲ俟テ不日新ナル運動ヲ展開スルヲ可ト認メ既ニ準備中ナルニ依リ右協議

ニ依ル今後ノ運動企畫ノ決定ト之ニ基ク何等ノ指示アル迄ハ朝鮮人同胞ノミヲ以テスル活動(本目的ノ爲メ會同決議等)ハ今暫ク之ヲ控ヘシメ新ナル活動展開ニ至ル迄隱忍自重セシムル如ク指導スルヲ要ス

越ヘテ十月二十日前記(二)ノ趣旨ニ基キ右在滿朝鮮人ノ反蘇運動ヲ全滿的排共國民運動ニ新展開セシムル企畫ノ下ニ田中警務部長ヨリ在滿各公館長宛更ニ左記排共國民運動要綱案ニ依リ計畫遂行方努力アリタキ旨訓達セリ

記

排共國民運動要綱案

一、方 針

國際共產黨ノ東亞擾亂侵略最近頻發スル在蘇、滿、鮮、蒙人ノ虐待事件ニ鑑ミ民族協和ノ威力ヲ以テ排共國民運動ヲ展開シ共產黨ノ暴戾ヲ内外ニ曝露スルト共ニ反共戰線ノ擴大鞏化ヲ計リ、併セテ民族協和ノ具現ヲ鞏化ス

二、要 領

- (一) 東亞和平擾亂ノ元兇ハ國際共產黨ナルコトヲ民衆ニ徹底セシメ、今次ノ支那事變ノ重大原因モ亦茲ニ存スルコトヲ内外ニ闡明ス

四八一

- (二) 在蘇滿、鮮、蒙人ノ虐待壓迫ノ實情ヲ内外ニ宣傳シ世界輿論ノ喚起ヲ計ル
 - (三) 共產黨ノ暴戾惡辣手段ヲ曝露シ支那民衆ノ覺醒ヲ促ス
 - (四) 之カ爲例ヘハ反蘇期成同盟會等ノ如キ特殊團體ヘ之ヲ作爲セサルモノトス
- 三、實施要領
- (一) 主 催 滿洲帝國協和會
- (二) 實施方法
- (イ) 反共大講演會ヲ開催ス
- 講演會ニハ實驗者ノ體驗談等モ加フル外、排共決議ヲ爲ス如クニ指導ス
- (ロ) 「ラヂオ」ノ利用
- 新聞ノ利用
- (ハ) 右ヲ利用シ事前宣傳ヲ徹底的ニ行ヒ大會ノ實況ヲ報道セシム
- (ニ) 傳單、「ピラ」ノ作製頒布
- (ホ) 「パンフレット」ノ作製配布(準備中)
- (三) 時 期 十月二十日前後、概ネ全國一齊ニ行フ
- (四) 實施箇所

共產主義ノ影響ノ大ナル地方及ヒ主要都市ニ於テ行フ
 新京、奉天、吉林、哈爾濱、齊々哈爾、海拉爾、錦州、承德、牡丹江、黑河、滿洲里、安東、通化
 並ニ間島、三江兩省ノ主要都市

四、經費

政府及協和會ニテ別途考慮ス

第六款 本問題ニ關シ帝國政府ノ採リタル措置

斯クノ如ク多年沿海州島蘇里方面ニ居住シ農業、漁業等ノ平和的職業ニ従事セル朝鮮人ヲ強制的ニ未
 開ノ中央亞細亞方面ニ移住セシメ以テ彼等ノ生活ノ根據ヲ奪ヒ且傳ヘラルルカ如ク輸送途中ニ於テ數
 千ノ死傷者ヲ生セシメタルカ如キ非人道極マリナキ蘇聯今回ノ所爲ニ對シ帝國政府ニ於テハ本年十一
 月十五日在蘇帝國大使ヲシテ蘇聯政府ニ對シ嚴重抗議セシメ猛省ヲ促ヌ所アリ右ニ對シ蘇聯政府ニ於
 テハ同月二十七日附公文ヲ以テ回答越セル處右回答内容ハ問題ノ實質ニ觸ルルコトヲ避ケ何等誠意ナ
 キモノト認メラルルニ付我方ニ於テハ近ク更ニ第二次抗議ヲ繰返ヌ手筈トナレ居レリ